



趣味を通じた生きがいづくり

十人十色

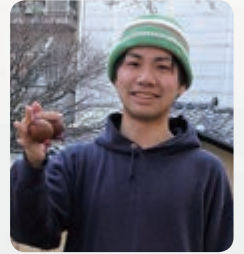
Vol.2

アサラト 演奏

「それ、何?」から始まる、つながる

伊東 直人さん

経済産業省中国経済産業局勤務
【いとう・なおと】昭和58年生まれ、
広島県出身。呉工業高等専門学校を卒業後、平成17年、技術系職員として経済産業省に入省。電気的安全や中小企業を支援する業務に携わる。



—伊東さんはアサラト演奏をされているとのことですが、「アサラト」とはどのような楽器なのですか。



丸い木の実の中に植物の種を入れて作ったマラカスを2個紐でつないだ、アメリカンクラッカーのような形をした打楽器です。西アフリカ発祥で、玉同士をぶつくとカチカチ、玉を振るとシヤカシヤカ、マラカスと

カスタネットを同時に演奏しているような音がします。

—アサラトとの出会いは?

今から10年ほど前に、音楽好きな友人が、どこからか入手してきたアサラトを見せてくれたのが出会いです。世の中には変わった楽器があるものだなと、妙に感心しました。

—演奏されるようになったきっかけを教えてください。

友人に紹介してもらった後インターネットで調べてみると、軽快にリズムを鳴らすアサラト奏者の動画がたくさんアップされていて、自分もやってみたくて思っていました。

—アサラトは、どのようにして入手されたのですか。

最初は地元広島にある民族雑貨店で買いました。今はアフリカの現地で買い付けしてくる仲間から直に買っています。

—アサラト演奏の面白さ、魅力とは何ですか。

どこにでも持ち運べる手軽さと、ジャグリングのような動きで、見て聞いて楽しめる場所だと思います。そして何より、演奏している人がまだ少ないということですね。初めて目にする楽器に興味を持ってくださる方も多く、そこから新たな人間関係が始まったりします。音楽ライブや地域のお祭り等のイベントでの演奏、保育所や老人ホームといった施設の訪問等の活動を行っています。

—ご自身の演奏以外に、アサラト関連でどのような活動をされているのですか。

私はアサラトの演奏を教えてくださいの方が周りにいなかったの、You Tubeを見て独学で習得しました。その時苦勞

した経験から、月に一度、「広島アサラトカフェ」という練習会を主催しています。広島アサラトカフェは今年で5年目を迎えました。続けているうちに広島だけでなく、山陰や四国といった遠方からも参加していただけるようになりました。10代から60代まで、幅広い年代の皆さんと毎回楽しくアサラトを鳴らしています。



—伊東さんがアサラト演奏を続けられている要因は?

—伊東さんがアサラト演奏を続けられている要因は?

全国にも地元にも、この楽器と一緒に楽しむ仲間がたくさんできたことですね。特に月に1度の練習会では先生役なので、練習するモチベーションになっています。

—アサラト演奏を始められて、何が変わりましたか。

働きながら練習や演奏活動、イベント開催等を行っているので、時間管理がうまくなったと思います。20代の終わりに1年間演奏活動を休んで中小企業診断士の資格を取得したのですが、日々の中できっちり勉強時間を確保できたのも、そのお陰だったと思います。

—伊東さんにとって、アサラトはどのような存在ですか。

色んな世代、立場の人たちとの距離を縮めてくれるコミュニケーションツールですね。珍しい楽器なので皆さん驚いてくださいますし、仕事上の人脈づくりにも活きているなど感じています。

—今後、どのように関わっていきたいですか。

とても楽しい楽器なので、もっと多くの人にアサラトに触れてもらえるような活動をしていきたいです。その核となる広島での練習会は、ずっと続けていきたいと思っています。



「広島アサラトカフェ」では子どもからオトナまで幅広い世代にアサラトの魅力を伝える